



食農連携のコーディネーターを目指す方必見！

農林水産省支援 平成21年度 食農連携機能高度化支援事業

食農連携のための現地コーディネーター研修（長野）

参加
無料

食農連携による ものづくりを通じた地域活性化

～食農連携に携わる現地コーディネーターの持つべき視点～

参加者募集（先着30名様まで）

日時：平成22年2月26日（金）
13:00～17:00

場所：信州大学 松本キャンパス
旭研究棟3階小会議室（松本市旭3-1-1）

※申込みは、裏面の参加申込を事務局までお送りください。

【研修の狙い】

現在、食をととした地域活性化等を目的とし、農商工連携や食農連携など、『連携』をキーワードとした多くの取組みが各地域を単位に推進されています。

これらの多くは、連携構築を進め新たな商品を開発する生産者や事業者の役割に加え、その活動をフォローし、連携の枠組を差配する地域の技術者やコーディネーターの手腕により、成果達成が大きく左右されると思われます。

これら現地のコーディネーターには、地域における食農の現状及びその地域を取巻く周辺の概況を理解し、単なる物づくりではなく、戦略的な視点のもと、競争力のある商品開発と連携構築の推進に向け、持続的な活動が必要であるといえます。

この度、(社)食品需給研究センターでは、農林水産省の平成21年度「食農連携機能高度化支援事業」の一環として、現在、連携業務に取り組むコーディネーターもしくは、これからコーディネーター等を目指す地域のみなさまを対象に、食農連携のコーディネート業務のポイントの一つとなる「ものづくりを通じた食農連携における地域活性化」をテーマとした研修を行います。

【プログラム】

13:00～13:30

食農連携のための事業推進マネジメントのポイント
～「自律型モニタリングシステム導入の手引き」のご紹介～
(社)食品需給研究センター 研究員 藤科 智海

食農連携の取組みを持続的に推進するために、事業の各段階において達成状況や問題点をモニタリングし、計画をレビューするツールの活用方法をご紹介します。

講義 13:30～15:00

食農連携における 新製品開発の方法

～製品開発ツールの紹介とその活用～



食と農研究所

代表 加藤 寛昭（食農連携コーディネーター）

食農連携における新製品開発で抑えておきたいポイント、新製品開発の各段階で活用できるツールとその活用方法を、大企業での製品開発の経験を持つ講師から学びます。

実践研修 15:10～17:00

新製品開発実践

～製品コンセプトの作り方～



新製品開発において、製品コンセプトの構成要素をしっかりと考えることが重要です。実践研修では、グループワーク形式で、製品コンセプトの作り方を実践的に考えます。

主催：(社)食品需給研究センター

共催：信州大学 産学官連携推進本部 地域ブランド・オフィス 後援：関東農政局

■実践研修進行方法

実践研修は、1グループを5～6名程度としたグループワーク形式で、グループメンバーにより意見を出し合いながら進めます。研修参加者が自らの知識や経験にもとづき、主体的に新製品開発のポイントとなる、製品コンセプトの構成要素の整理を行います。



進行説明・準備

■進行説明

講師より、研修目的・ねらい、研修の進め方、グループワークでの発言時の注意点などの説明を行います。

■グループ分け

1グループを5～6名程度でグループ分けを行い、各グループのメンバー同士、自己紹介を行います。

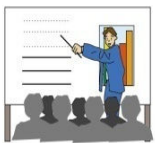


グループワーク

■グループワーク(製品コンセプト・ポジショニングの作成)

新製品開発において、製品コンセプトの構成要素をしっかりと考えることが重要です。「市場に直接的な競合品はあるか、市場の代替品は何か、それとの比較で差別的優位性は確保できているか」などといった視点に立ち、基本的な製品機能、パッケージデザイン、付加的な機能などに対する構成要素について話し合い、整理をしていきます。

【製品コンセプトの構成要素を把握します】



グループ発表

■グループ発表

各グループにおいて取りまとめた内容の発表を行います。

■まとめ

発表に対する講師からのコメント、総括を行います。



まとめ

【食農連携による新製品開発において、持つべき視点を理解します】

■講師のご紹介 「食農連携における新製品開発の方法」の講義に引き続き、実践研修の講師となります。

加藤 寛昭 (かとう ひろあき)

ライオン(株)で食品の営業、企画部、製品開発担当者(プロダクトマネジャー)としての実務経験を積み、マーケティングと事業計画立案、製品開発は最も得意としています。大企業の有する製品開発手法を、中小企業や農産物の加工場向けに使い易く手直しをして、きちんとステップを踏んだ特産品開発を実施し、売れる商品開発の実現を図っています。

本研修では、当研修講師監修のもと、当事業において作成された教材を用いて、講義と実践研修を行います。

※詳しくは、食農連携コーディネーターバンクをご覧ください(<http://www.fmric.or.jp/facobank/index.html>)

申し込み方法

参加をご希望される方は、**平成22年2月19日(金)**までに、①所属、②連絡先(住所、電話、E-mail)、③氏名をご記入の上、E-mailまたはFAXにて下記宛てにお申込みください。

申込先:(社)食品需給研究センター 調査研究部 食料産業クラスターチーム宛

E-mail:cluster@fmric.or.jp / Fax:03-5567-1960

所 属	
主な職務内容 (事業活動地域)	(※グループ分けの際に必要な情報となります)
住 所 T E L E - m a i l	()
氏 名	

※ご連絡頂いた個人情報、本事業の運営以外に使用いたしません。

【お問合せ先】 〒114-0024 東京都北区西ヶ原1-26-3 農業技術会館3F
社団法人 食品需給研究センター 担当:調査研究部 松崎(まつざき)、藤科(ふじしな)
TEL:03(5567)1991 FAX:03(5567)1960 E-Mail:cluster@fmric.or.jp